兩峰一名

逍遙文庫
文庫6
1881
4

文庫6
1881
4

地
6
矢

阿久刀神社 芥川村にあり延喜式に出雲の生土神とあり今住吉明神と称し阿久刀は芥川に相通じ貞和康安の頃まで芥川

芥川古城 右月村にあり古趾と今は城堀内と称し始めは伯耆の人永正右馬元これに居し三河守より始めて三代永正年中に好希雲第三男孫治郎長則これに據り希雲細川高国に仕へされ長則は洛の百万遍にて自殺し其子孫十郎これに據る天文廿二年八月長慶これを逐ふ孫次郎儀奥にとられと守護に仕ふ細川六郎織田七兵衛土岐山城守又これに據る

松永彈正久秀故居 東五百住村にあり

鴨神祠 赤小路村にあり例祭十月朔日

津江薬師 津江村にあり本尊瑠璃光佛は行基の作なり霊験あり毎月十二日近郷より群集

○唐崎 芥川の下にあり此地は近郷の諸荷物運送の場なりて問屋商家有り繁昌一村なり

三嶋若宮祠 唐崎村にあり祭神八幡春日三島辺の社の若宮なりと高槻へ十八丁

三嶋江
川淀や
沒とやそ
る
芦の角
猿雖
羽花
春霞
かすやはの
ほのぐもの
ひろうすぐ
ろん
蔦頼家

○三嶋江　唐さゝ村の下に行う番田村より西へ水上凡二十丁ばかり川辺に家屋あり又船客の猪手にまたがりて此所より上る行う或い重行くこゝ岸に船をつゝる上下ともに同し此所より大坂まで陸路行程四里

此地いにしへより三嶋江或い三島江浦玉江あゞ和歌の名所ふ

しゝ代の勅撰にもゝ実や淀川の流れを帯て浪花より京師ふ通ふ船夜こゝろく屋と形く櫓柏子に哥纒ひてさゝ下に有登る有引船の縄長くいるゝ縄縄く鉄車とかゝ音凄〻く引つゝる水皇の足並柳ふつれ芦間の蛍飛こゝ〻に時雨の一聲ふ月清こゝろ流水溶〻こゝて河風凛〻たるふ船より船に酒うる声驚忽こゝて人〻眠を覚に須初雁のかゝ〻こゝに千鳥なく霜寒こゝ夜みゝ此三島江の風流こゝ何れの和歌の種なれば

万葉

三嶋江の入江のゝ真菰かりこゝ我とゝ君ゝひこゝ　読人しらず

於送

三島江の玉江の蘆とゝあゝこゝ玉のごとゝ外ゝと　柿本人丸

三嶋江渡口　島上郡　三島江村より河州茨田郡出口村の岸へ淀川とこゝに舟こゝ出口の渡の長二百十間ト云

三嶋鴨神社　三島江村こゝ延喜式に出　唐津　西国　桂木　あの生土神こゝ

祭神事代主命　末社五座本社の左右に列に当社いにしへ堤の上に行

風土記云御嶋神社ハ大山積命に難波高津宮御宇此神百済國

杜本
稲荷祠

醒花

鳥飼

藤杜神社

[illegible]
[illegible]上中下西村と
[illegible]村ありて甚だ
[illegible]て長し凡上村より
西村までの間一里の余
あり
生土神社は西村より
[illegible]て茂の森の社と
[illegible]

[illegible]の
人まと出て土砂と
[illegible]水路を[illegible]
[illegible]

淀川や
のるる堤よ
[illegible]
[illegible]
[illegible]て

歌城

より渡来し給ひ津國御嶋に坐すと云云

片葉蘆　當社の神籬に生し一説に川辺の葦に添れて自然と片葉
とすり又其性とうけて茅立より片葉と生ずるの義なり　あの作も
なし　川岸にうれが性とつくべし　今は
片葉に生ずるべしこれ風土の奇なり

玉川　三島江村の西の方西面村の田畔の中にあり名所六ツ玉川の其一なり
土人云中秋の月此流水にうつる時八つゲ二ツはうつるなり
和歌　うち玉川の里と書く詠り　卯花　時鳥　梅衣　月　萩　氷柱　氷
霰　あられ　雪　なり

晏羅　時ちかぬ里に玉川いかとう実の酒杯とうれむ白雪　定家

蔡　見るとせば波の柵かけくらり卯花咲る玉川の里　相摸

千載　松風のすぐふ秋のさびしきに衣うりうる玉川のさと　俊頼

○柱本　三島江村の下にあり　御牧のあり時中の御牧とあり　旧跡
あり上の御牧村共に延喜式に出

淀川の流　あの辺りに土砂多く滞るゆえ所々に瀬と
なり中々通船のさしつかへぐるゆえ常に河堀の人夫出て
是を浚へ水尾串と立て水路の便とよく仮に上下の船
客に聊の助力と乞ふされば昼船は人夫の乞ふに任せて直ふ
銭と出すれども夜船は各熟睡されば河堀の男ゲせりさき
声に爰と波うれ詢きるぐ紡布の口と開くはうの虚睡して
是と通んとする白痴あるれど正直の乗合かしらと員へて一個も

淺瀬今も猶河堀の男ゝ渡候ものこの船中の風俗ゝ

○鳥飼 往本村の下にあり此所より摂州高下郡とす 上村 中村 下村 西村とあり堤の名至つて長し 三島江より上手鵜殿水上凡三十二丁とす

水上凡十五町上手鵜殿より平野郷水上凡三十二丁とす

四面より大坂へ陸路行程 三里

散木 あさくらの鳥飼の船とさしもぐさ 俊頼

鳥養宗慶跡 右上村にあり今は其苗孫なり

宗慶は鳥養氏當村の人なり書と能くせり名高し初め御家流と学ひ後は一家とす是を名養流と称し後に宗嘯と云

十市兵部少輔遠忠同男遠勝又貞徳の父永種 柿長崎 飯尾常氏 みな鳥養流の名家なり

馬嶋 鳥飼の前淀川の中にあり長サ一里ばかりなり洪水毎に崩流せり 往古御牧の古跡なり

鳥飼御牧 右馬寮 古蹟なり

延喜式曰 凡諸節及行幸應用國飼御馬者勘量須數奏聞乃下官符令進唯牧放飼馬者寮移當國即令牧子牽送 但摂津国鳥飼牧豊嶋牧不移當国寮直放繋 凡國飼御馬者摂津國十疋 右寮 又同式曰 摂津國鳥飼牧 左寮

土佐日記云二月八日なれ川のぼりこぐほどに云

鳥飼渡口 下鳥飼より河内淀田郡仁和寺村淀川とあり毎年仁和寺の御牧なり云云 云云辺なり江海なり

藤杜神祠 なり西村にあり此地五ケ村の生土神なり山別岳の表崇道神敬天皇と勅請ありし例なり九月九日同所より三本松天満宮と称す

あり菅公流謫の時下向のとき立て給て旧跡となす例祭
六月廿五日又当村中に下り松義経松踊とて名木なり

○輪道 同下に有 柳島 輪道村の前 ○一津屋 輪道村の下に有
名所の内に 淡川の中に有

一津屋渡口 島下郡一津屋村より河州茨田郡八番村へ淡川を渡る渡船
渡の長サ三百九間より下鳥飼より此ほまで水上凡九五丁

神崎川 一津屋村の傍に有淡川の流れ西へ分れ吹田神崎を廻り大和田と
めぐり海へ入る江口まで唐船入る 林田記

江口渡口 右神崎川を隔て一津屋村より江口村へ渡る舟
江口村の郷保田中氏に元亀年中の古牒有り其文曰

渡舟之儀昼夜令弛之之条尚村之事乱妨狼藉一切
非分除之若猥後在之可成敗之状如件

元亀元年九月 信長判 江口村 船頭中

○江口 右神崎川の南の岸に有る駿波江口の駅なり 吹田の川尻にて淀の川尻にて駿波江口の駅なり 西国より船にて淀の川を上る程海船にて伝る
永ふつづく見えり川船にのりて淀なれば乗換の地なり 泉州堺の津より天正年間より大坂海内の大湊となれり今は農家僅に有之 中略
いにしへ耕作の地なりと云へり○此辺より吹田への街道なり但し吹田の川の北なり
続日本紀曰 天平宝字三年十月高麗の使高南甲難波の江口に
到ると云云 海船にて通ひし証なり一津屋より見え三丁余

菅家後集
川末の江口に立る芦鶴のなく声と我なきそせよ 菅家

君堂 同村に有る日蓮宗宝林山寂光寺普賢院と号す 女僧住職
桜ゑん江口の謡の文義なりて後世に伝へ
江口君像 本堂に安置長さ尺ばかり座像其余普賢菩薩の眷属と安置
又什宝に西行法師の形あり

山深くさそふ心はかよふとも哀いかなる人か知らん 西行

江口
寄墳
君堂

草葉も
心あらばや
花ちるる
魯白

君堂や
ゆくも
いとゞあ
玄の面
呉逸

逆巻
橋寺
新川

山川

逆巻より平田までの
間淀川の内に家作
ありて川條二流に
なりて彩川と呼
山不学にして諸の人夫出
没水尾串を立
通船を助く毛角植ゆ
同じ小のなりに彩らしき
石の地蔵を作り是八を年
水死の供養に建るなり

江口城墟　江口の村甲田中氏の家其古跡なり

天文年中三好宗三こゝに據る

寄墳　同村南の堤下に新古今贈答の和哥と石刻して建る

北の方に西行法師の苔の南の方に妙の字

天王寺へまゐる道にふねをまうければ

江口にやどりをかりて侍れば

新拾遺

世の中をいとふまでこそかたからめ仮の宿りを惜しむ人かな　西行法師

同

世をいとふ人としなどかなかるらん　妙

江口尼古蹟　同村にあり旧趾詳なるべし尼の軒に西行撰集抄を今見へたりこれ

○辻堂　江口村の下にあり

○辻堂渡口　西成郡辻堂村より河内淀川を渡る下にあり

○南大道　辻堂村の下にあり

○淀川監船所　南大道村の下にあり世俗三平田の番所なり

○逆巻　南大道村の下にあり北大道の属邑

○摘寺　逆巻村の下にあり

○平太　摘寺の下にあり

平太渡口　摂州西成郡平太村より同東生郡今市村へ淀川を渡る舟渡なり今市の辺にて云平太より大坂へ約程凡二里

○三番　平太村の下にあり江口より此所まで水上九三十五丁ト云

○二重新家　三番村の下にあり淀川を渡る三番より此所まで水上九三十丁渡通路なり

此所より堤を下りて小さき通路あり甲冑手ヲ奈村瑞光寺にいたる

○増嶋　新家の下にあり

堂前に鯰の橋あり是より吹田村に出る乃道なり

○紫嶋　増島の下にあり俗国侍と書り紫嶋と書り

字義詳なるべし一説に糊の料と遠近に遠しと云ふ

糊と糊の料と糊の料と遠近に遠しと云ふ

紫嶋の堤　此地淀川の辺なる由にて流れを汲んで市場を造れり

紫嶋の堤　これと紫嶋ざかりにて流れを汲んで市場を造れり

一説に白姐とも云ふ

紫嶋ちの松林　世に名高し

柴嶋
晒堤

半篙春碧
滑無聲坐
撫青山遞
送迎水路
日長人易
困雲間喜
認出金城

嶋棕隠

玉川の郡の
花ゝふ
ゝゝ
ゝゝ
布の白享

鷄成

下荷や
ゝゝ
船の跡

芦泊

長柄川　柴清村の下にて一名中津川と云淀川第二の支流なり北長柄村より西へ
　　薬師堂村より北長柄村と云へる所にて舟渡の長サ十九間と云
長柄渡口　二重新家より武正まで水上凡二十五丁ほど
　　陽ざしよりあしの橋どころ　来山

○北長柄　右川の南岸にあり是より大坂へ行程七里南村に教迦堂の旧址あり
　　世に大字の名号あり此橋の四証古来より詳なるべし今の世に絶れの世に
長柄橋跡　朽らぶれたる是又多の所
　　按ずるに上古は大物浦より東北江に里南は福島浦江曽根崎より
　　北は神崎川まで一面の大江なりしを程なく大江の名ありて是を難波江
　　難波入江　難波江の浦　三津江　御津浦　和歌に詠れしより其
　　江の中に嶼々多くあり今村里の古名の遺るもの多し所謂南中
　　嶋北中嶋の中に橋本柴嶋須川口小嶋等なる水遠の郷名なり
長柄橋は　孝徳天皇人王第四十代長柄豊崎宮の御時より彼嶼々架し
　　て皇居への通路とせしより今詠る長柄橋は長サ一里ばかり
　　と言伝へしより是一橋の名にあらずして嶋より嶋へ渡へしと
　　其橋の數許多あれども地名によりて皆長柄橋とひとしく
　　古来よりも今の北長柄より豊嶋郡桑水庄に至るまで長柄の
　　橋跡と言つたへされど橋杭と称する朽木所々より堀出る事有

長柄三ツ頭

長柄川

同渡口

我黒

江戸 行成

其所一挙すべし是ゝて一架の稿すべきと知べし長柄豊崎宮
孝徳天皇崩じ給ひし後ハ大和國飛鳥宮ふ遷都しゝ稿の
修理も怠り風威の時江海激荒しゝ落損じゝる事多かりし
ふるり其後　嵯峨天皇　人皇五十二代　の御宇弘仁三年夏六月再び
長柄橋と造らしむ後世よ逮んゝ神崎川長柄川天満川と
水路分れゝ江海ならゝ田圃と変じ今の如く村里と
なれり菜田変じゝ海となるるハ大なる益なりし
玉葉　さもあるべきなれ名のゝ長柄の橋柱ばかりの人もなき定家

毛馬渡口　東生郡毛馬村より西成郡北長柄村へ渡川とゝ舟ゝ
渡の長サ百九十間ト云此所ゝ惣称ゝ毛馬ゝ同ゝ

○南長柄　北長柄村の下ニ有り村中の北田圃の中ニ
考源ゝ有来由詳ゝ

鶴満寺　南長柄村ニ有り天台律宗　本尊阿弥陀佛　慈覚大師作長四尺許
雲松山慈祥院と号ス

観音堂　本堂の西ニ有り秩父坂東西国巡礼所ゝ百躰の観世音と安ス
又堂下ゝ其国ゝの霊場の土と以て布ゝ建るゝ

梵鐘　長門の国主毛利侯ゝ寄附ゝ佳昔城下の辻土中ゝ堀出ス
鋳銘彫銘あり原ハ異国の器物ゝ鋳銘ニ云大平十年二月云云

糸櫻　境内ゝ大樹数株ゝ花の盛ゝ幽艶ゝ駿人墨客打ゝれ
風流ゝ乗ス又此樹の傍ニ鬼貫の墓鴛鴦の塚ホ有り

國分寺　国分村ニ有り真言律宗　本尊阿弥陀佛　聖徳太子御作
正岡山金剛院と号ス　座像長三尺五寸許

不動堂　門内の西傍ニ有り　地蔵堂　同東の傍ニ有り
赤不動尊と称ス　敷石地蔵と称ス　當寺ハ国毎の国分

木村堤
樋の口

櫻宮行楽
正花多笑
語聲流春
夜波紅燭
青簾何處
客猶停遊
舫在横坡

嶋椶隱

殿造り
神さび
今
花見
人

木のもとに
けも
けれ
芭蕉

其二

上下の船より撰銭とて悪銭
通中ゝの猥ゝ及びとゝ
の日ハ去年秋冷の陰ゝ
三月十三日より九月十三日
まで撰銭とゝ例ゝ
されば年老る藤蔓ハ用
ふとゝて沼間の邪気ハ
おゝさわるゝとゝ御
伝説の九尾狐とのゝ

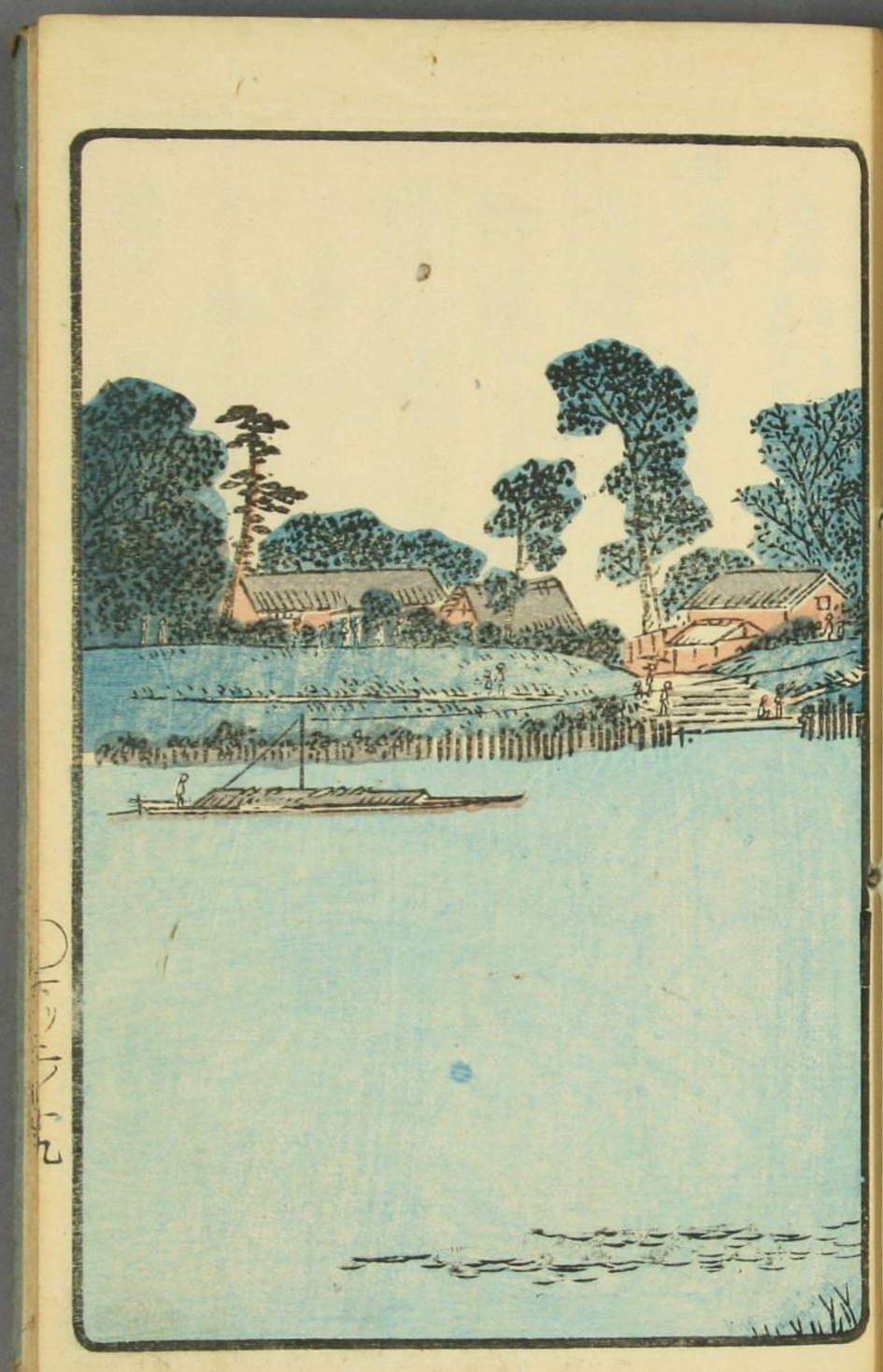
敷蓙の上と
ゝゝ
ゝゝゝゝ
半休
川御
市戸ゝ著
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ

寺の其一箇寺にて本願は聖武帝開基に行基僧正なり荒無
の後快圓比丘中興し〻律院となる国分寺料は一萬卒
東其外施料の事延喜式に文徳實録にも見へたり後世廢
し〻今僅に存せり又東生郡にも国分寺あり何れ一箇寺に
国分尼寺の旧蹟なるべし後人尚考へべし

○国分寺　南長柄村に隣る則ち
左国分寺の村里なり。濱村源光寺鬼子母神堂権現松は此所の西にあり
梱之口　国分寺村の下にあり天満堀川へ淀川の流れと通ずる梱の口なり
延享年間繫
木村堤　右梱之口の堤とは此地は淀川の西にして国分寺村の辺りより
堤の長和つゝき弥生の岸より北下の岸迄

源八渡口　梱の口の下にあり西成郡天満源八町より東生郡中野村へ淀川を
渡す中野の渡しなり水上八十四間ト云

○川寄　中野村材木藏村屋敷方川岸に建列る此所にて萩ぐ〻
小橋あり此上より船の繋ぎと引べきもの又川べり
洪水の時は下り船皆此所にて客とよるなり
北長柄三ツ頭より此所まで水上凡九五丁とい
川崎御宮　天満宮の分祠の東傍にあり　元和年間松平下総侯創建し給ひ三江
和尚寺勢し九昌院建国寺と号し禅宗洛陽建仁寺に
属し御例祭四月十七日此日雑人の乱酔と許りなり是なり
浪花市中は言も更なり近郷の貴賤群集し川岸に出て



源八渡口

碧波蕩々
拍堤流風
冷櫻林揺
落秋秋景
不如春景
閑來呼源
八渡頭舟

後藤梅園

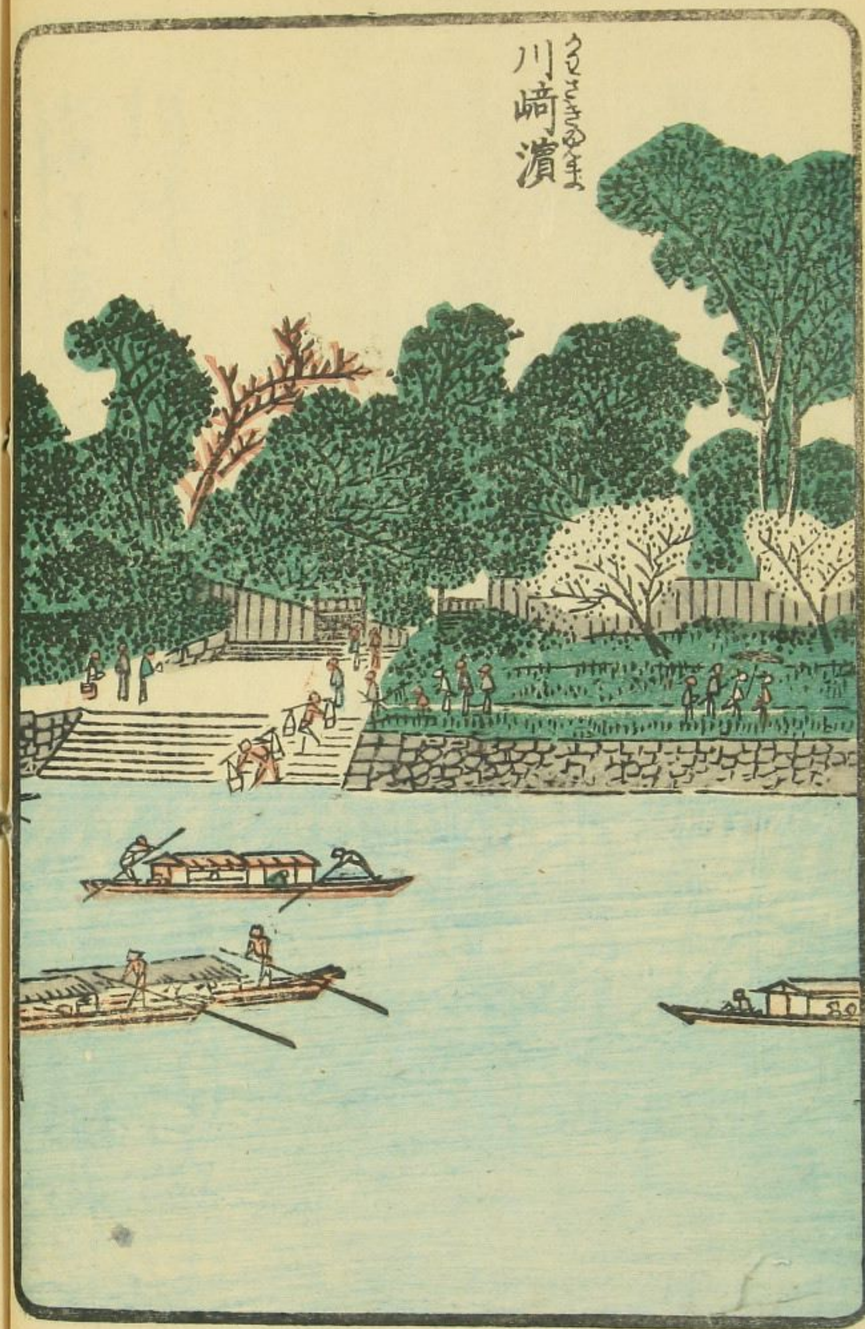
遊宴〳〵渡船ニ乗て東堤ニ渡り或ハ東堤より
西ニ渡り〳〵糸竹をあらて両岸の賑ひ言語ふ絶せず
さる程ニ堤ニハ懸茶店つゝるゝ貨食店菓子賣とぢめ
童の手遊也花かんざし鬻ぐ男等所せきまて打群〳〵
恰も鼎のゝ如し〳〵昔夏第一の大紋日なり

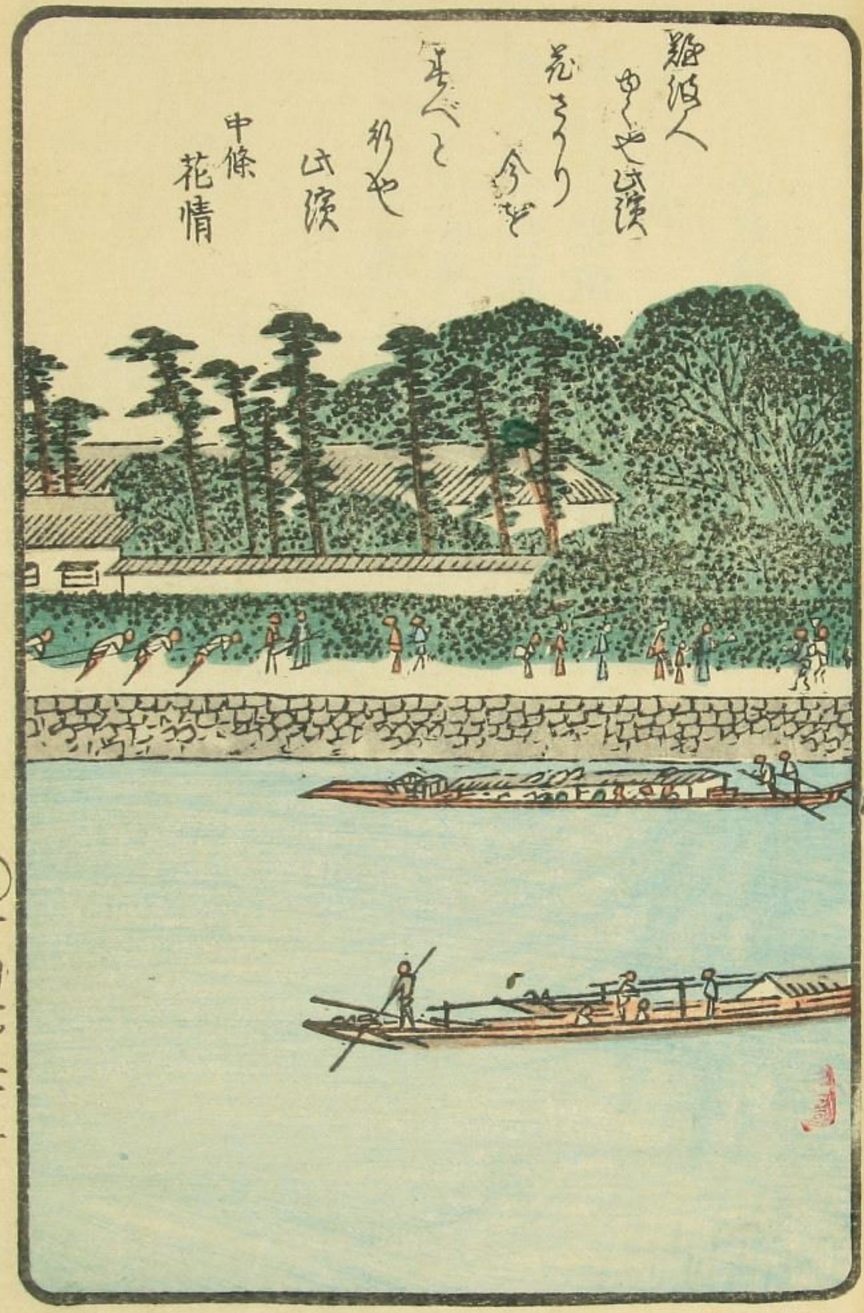
川崎渡口　天満川寄町の渡より淀川とゝ流れ出る京橋より
御城松の下ハ〳〵ゝ川筋ニて用系〳〵渡の長サ八十四間ゝ

監船所　川筋ニあり淀川船方の番所ゝ

天満橋　北詰ハ天満二丁目南詰ハ京橋二丁目ゝ〳〵川上第一の大橋なり長サ
百十五間五尺ゝ〳〵淀川筋又称ハ川古大和川平野川猫間川ハ合流ハ

此橋下ハ淀川の流れ西ニ曲折て水勢つゝるゝ故ニ上船ハ水主ハ
力を尽し〳〵棹さし下船ハ押流されじと船とまりして大切ニ下る
是を艫下るゝ〳〵　淀の小橋ハ又同し見るゝ時ハ大事ニ及ぶ也
徒然草曰高名の木上ニ登て言し男人を捉て言ハ上せて猶と
伐せ〳〵ふ甚危く見へ〳〵程ハ言ふ也ゝ下る時ニ軒ゝ許ふ
成〳〵過ちなふ心ゝてゝゝと言葉を掛ゝ〳〵と斯ゝ成てハ
危下るゝ下ゝん如何かくハ言ぞと申侍ゝ〳〵ゝ甚事ニハ目
ゝゝあゝ枝危き程ハ己ゝゝゝれ伐れば申ゝ過ちハ安きゝ所て

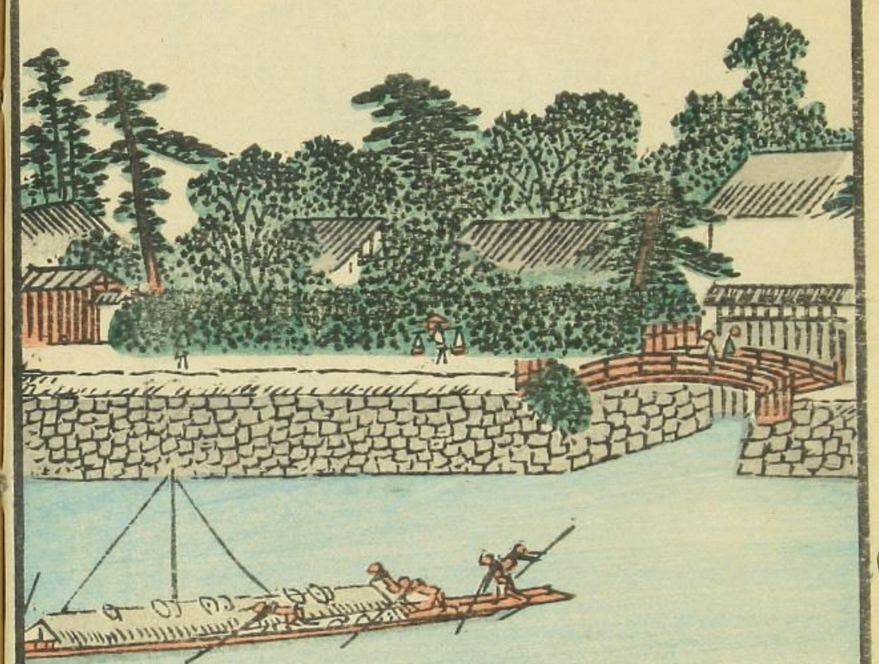

川崎濱


難波人
ゆくや武濱
花さくり
今ぞ
生べと
ゆくや
武濱
中條
花情

其二
御材木蔵
萩橋

十里流澌送野
航曉風梦後拂
春霜江南韻蹟
梅花在向客依
依吹古香

嶋梗隠



必ず仕る事もいとゝあやまつ事を下着されも聖人のいましめ
鞠もかくゝと所を跳出して後安く思へば必ず落ること侍るやうん
易繫辭曰君子は安きを忘れず危きを忘れず亡んことを
亡ばず治まれども乱れんことを忘れず是を以て身安くして国家
保んぬべしと実や高木に上る者のいましめ是なり下船の水主
楫取も又是に同じ淀川の長流を下り既に八軒家の見まるに心
あらずして急ぐ則ち必ず過ちあり然るに世ふるに大切なる変
所理なり船客も船の着しを悦び心やすらかに過ぐべ

菜蔬市場 天神橋北詰より東へ三町ばかりの間にあり北詰より西と市の街と
一つ共荒物乾物の商家多し
此市場は日々朝毎に菜蔬と高ふして春の初の初市より暮の
終市に至るまで一日も怠らず賣買市人鳥のごとく集ひ
鱗の如く萃る其盛なること甚し 原此市場は京橋南詰にあり軒
京橋少詰片原町より慶安の頃其所御用地
習地と免され今の所にうつり然るに商人の往来はひたすらに
天満天神社 右市場の北にあり正面通と
九丁目東西に流る内に在る所なり
本社中央 大自在天神 相殿 東二 手力雄命 西二 猿田彦大神
東三 法性坊尊意 西三 蛭児尊
其余社頭に末社多く神輿庫 宝庫 文庫 繪馬舎 廻廊巍々たり

菜蔬市場
天神橋

世習滔々趨侈奢
嘗新薦異競相誇
詩人欲賦苦無例
九月龍孫十月瓜

廣瀬謙

もゝ栖てい
まゝ花瓜と
市乃例

梅通

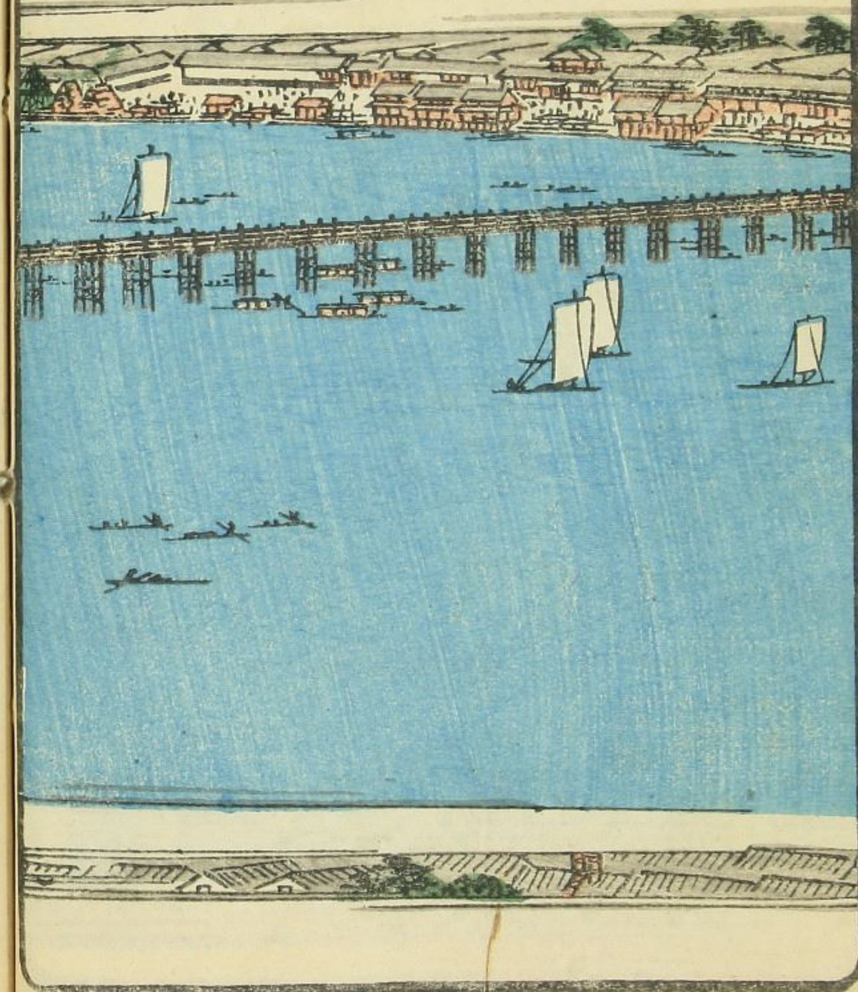
言是名都第一橋
萬登轟地夜猶多
舟舩隨處皆堪泊
筒々樓燈照暗潮

嶋掠隱

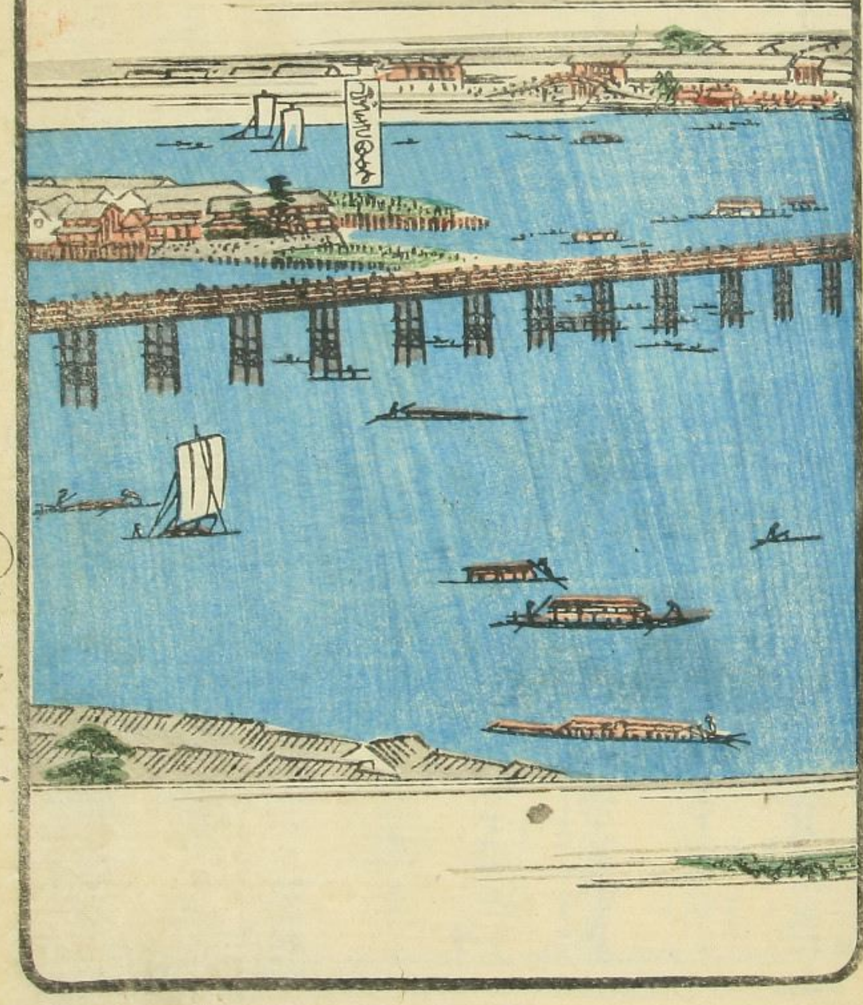
其二

難波橋
鍋島之濱
山崎之鼻

白と紺
そらしや
橋ぢゝ
ひろう
伴水園



みたらひ
ゆうはの
橋と夕風や
ちと山陰の
えるうみ
しゝく
棋原



此地ハ往昔北西ヨ續きゝ松原ゐるゝ村上天皇 仝皇 空代 天暦年間
勅願よりゝ初めゝ建立ゝ給ふ所ゝ故ヨ天神松原天神の
森ゝど古書ヨ見へゝ地名と天満と号ゝ天満宮鎮座
ゝ給ふ故ゝ霊験ゝたゝれば四時ヨ詣人間断ゝ
遠近ゝ群集へ社内ゝ昔噺ゝひ軍書講釈の小屋地上
ゝ放下師品玉怪業の藝新内祭文流行歌の讀賣楽屋
菓子類手拭貝の出店ゝと地ゝ出ゝ駆ゝ言ん
かゝゝ門前ゝ貨食家者煮賣店鮓屋饅頭果實賣珎器
奇品の商家軒とゝべゝ繁昌ゝ皆菅神の余光といん
べゝ例祭六月廿五日ハ鉾流ゝの神事と号して神輿戎鳴の行
宮ヨ渡御ゝ其壮観の美景ゝ世俗普ゝ知る所ゝ又九月
廿五日ハ秋祭の神事行ゝ流鏑馬の式ゝ殊ヨ盛ゝ例
月廿五日ハ治人群ゝ就中正月ハ初天神ゝ繁昌ゝ
ゝ雑ゝ立ゝ寸地ゝ所謂早春の大祭日ゝ

天神橋 北詰ハ天満十丁目南詰ハ京橋六丁目ゝ川上ゝ第二の大橋ん 長サ百二十間三尺

當橋の北詰通ハ十丁目條と号ゝ夫ゝ數の町ゝと経て長柄の

渡口ふ通じ高槻山崎と過て京師に至るの街道なり且近郷
便宜の通路なるゆへ諸商家軒を連ねて萬端のとゝのへる事迄
なる程に旅人遊客ならびに諸色のとゝのへる農夫天満宮の詣人街
に混じ終日閑静の時とならば家に浪花北方第一の繁昌なり
南結の東ハ八軒家の舳岸にして是又昼夜とのゝ賑ひ此所
より出船ハ此に多くなる故に船客なの〳〵是より上陸ハ又
東堀道頓堀の船ハ橋の下より東堀と下流北濱西横堀の船ハ
大川と下り雑喉場の船ハ尚土佐堀と西に下る船客なの〳〵

其便宜に隨ひ無変に着岸なること甚愛度〳〵尚難波
橋の風景ハ前にしるし〳〵著せば畧〳〵愛に筆をとゞむ

奈

心あらん人に見せばや津國の難波にうつる名所の花　能因法師

淀河條道法

○伏見豊後橋より大阪西川口まで十三里四丁十三間

○豊後橋より淀小橋まで一里七丁四十間　○淀小橋より沼口三頭まで壹寸四間
○沼口三頭より長柄三頭まで二里三十四間　○長柄三頭より天満橋まで九町六八間
○天満橋より川口木津新町まで二里三町間　○淀水垂より大坂京橋まで水勾培八丈四尺五寸五分

浪華　曉（前鐘成）　晴翁著述

同　松川半山畫圖

皇都　鎌田醉翁傭筆

宇治川両岸一覽（うぢがはりやうがんいちらん）　曉晴翁著（中本）　松川半山画　全二冊

文久元辛酉年季春發行

出板　江戸日本橋通弐丁目　山崎屋佐兵衛
京都綾屋町姉小路上ル　俵屋清兵衛
大坂心斎橋通北久宝寺町　河内屋茂兵衛

早稲田大学図書館
011688994855